

第3章 総合的な学習の時間

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領、埼玉県中学校教育課程編成要領、同指導資料及び同評価資料の趣旨及び内容を踏まえ、各学校において実践されている総合的な学習の時間に更なる充実が図られるよう、作成したものである。

総合的な学習の時間では「探究的な学習を通す」ことを目標の一つとしている。探究的な学習とするためには、その探究の過程（学習過程）に、①課題の設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現といった知的な営みが有機的につながって発展的に繰り返されていくこと（スパイラルに高まっていくこと）が望まれている。そのため本資料では探究の過程に視点をあて、各過程を重視した実践を取り上げることとした。

まず、「本実践例のポイント」として、その学校における総合的な学習の時間の全体的な概要と、特に重視した探究の過程について示した。さらに「6 指導の工夫」として、重視した探究の過程について更に詳細に示している。

各学校においては、すでに特色を生かした実践が行われているものと思われる。ここで改めて探究の過程について視点をあて、工夫改善が図られ、充実した総合的な学習の時間が展開されるよう本資料を参考・活用されたい。

2 取り上げた内容

(1) 構成

本資料は、以下の事例等により構成した。

第2 実践事例

事例1 <言語活動の充実> 自分の考えをもち、伝える力を育成する事例

事例2 <探究的な学習> 課題の設定を工夫した事例

事例3 <探究的な学習> 情報の収集を工夫した事例

事例4 <探究的な学習> まとめ・表現を工夫した事例

第3 総合的な学習の時間における伝統や文化に関する内容の学習について

第4 総合的な学習の時間におけるボランティア活動について

第5 総合的な学習の時間における小中連携について

(2) 各事例の主なポイント

上記事例1～4のポイントは以下の通りである。

事例1 <言語活動の充実> 自分の考えをもち、伝える力を育成する事例

「人のため、社会のために何ができるのか」～自分の考えをもち、分かりやすく伝える～

- ・「読む」「書く」「まとめる」等、言語活動を充実させるためのワークシートの活用の仕方、手順を示した。
- ・言語活動をより充実させるため国語科との関連を示した。

事例2 <探究的な学習> 課題の設定を工夫した事例

「埼玉県と長野県の違い～スキー実習の機会を活用して～」

- ・生徒の課題意識を高める方策として、意図的に共通授業に時間をかけ、疑問や発見から興味・関心を引き出すこと及び単元を2サイクルに分け、知のスパイラルを意図的に設定し、課題の設定に深まりをもたせることを示した。

事例3 <探究的な学習> 情報の収集を工夫をした事例

「世界に目を向けよう～はじめての大使館訪問～」

- ・最新機器の活用も含め、情報を収集する上で必要な方法を数多く示した。
- ・より多く、確かな情報の収集を行うために各教科との関連を指導計画の中に示した。

事例4 <探究的な学習> まとめ・表現を工夫した事例

「はくちょうで学ぶⅢ～福祉～」

- ・まとめの段階で、生徒の考えを明らかにするための方法を指導手順も含め示した。
- ・発表会やプレゼンテーションにおいて伝えるための具体的な方法を示した。

3 活用に当たっての配慮事項

本資料では、探究の過程における指導の工夫を示したことで、各学校で実践されている総合的な学習の時間の各単元の実践において参考になるものである。その際は、総合的な学習の時間の趣旨やねらい及び各学校の実態や特色等を十分に踏まえることが大切である。そして、どのような力を生徒に身に付けさせたいのかを明確にするとともに、全教職員が共通理解した上で、十分に活用されたい。

第2 実践事例

事例1 <言語活動の充実> 自分の考えをもち、伝える力を育成する事例

本実践例のポイント

3年間を通したテーマを「生きる」に設定している。第1学年のテーマは「地域に生きる」、第2学年のテーマは「未来発見・夢実現」、そして第3学年のテーマを「人のため、社会のために何ができるか」としている。本単元（第3学年）では、自分の生き方について考えをもち、それを伝えることを目標にする。言語活動の充実を図るため、学習を3段階に分けて、1次学習から3次学習のそれぞれにおいて、体験や調査、分析、小グループでの討論会を取り入れ、これらをもとに、「文章に書くこと」と「言葉で伝えること」の学習へつなげている。特に3次学習においては、「深まった自分の考えをより分かりやすく伝える」ことを目標にし、学年・全校発表、校内・公共施設での展示、論文の提出、諸機関への応募等を行うことにしている。主に国語科との連携を重視し、生徒の「読む力」「書く力」「まとめる力」を向上させる等、言語活動を充実させる事例である。

1 単元名 「人のため、社会のために何ができるか」～自分の考えをもち、分かりやすく伝える～（70時間）第3学年

2 単元目標

- 「人のため、社会のために自分ができること」を、自分の生き方と照らし合わせて、考えることができる。
- テーマ「生きる～人のため、社会のために何ができるか～」に沿って自分の考えを深める手がかりを見付け、主体的に学習を進めることができる。
- 自分の考えを他の人に分かりやすく表現することができる。

3 単元設定の理由

本単元では、①様々な経験や社会の事象から問題点をとらえ、自分の生き方や考え方について考えをもつこと。②「人のため、社会のために何ができるか」の考えを明確にすること。③考えたことを言葉や文章で伝えること。④他の人に提言する方法を工夫して、分かりやすく表現していく活動を行う。

第1、2学年の総合的な学習の時間で学んだことに合わせて、第3学年の体験的な活動（校内・地域のボランティア活動、修学旅行における異時代・異地域調べ学習及び体験記制作、保育園実習、いのちを大切に考える学習等）を基にその都度、自分の生き方や考えと結び付けて発展させたり、深めたりして、自分の意見をもち伝えることができる力を身に付けさせたい。

そして、社会の一員として、自分の生き方についての考えをまとめ、表現するという言語活動の指導に重点を置きながら、将来を意欲的に生きる力を育成したいと考え本単元を設定した。

4 単元の評価規準

評価の観点	課題設定力	学習に主体的・協同的に取り組む態度	自分の生き方（自分の考えをまとめ、伝える力）
評価規準	テーマの「自分の生き方」や「人のため、社会のためにできる行動」について、明確な課題を設定しようとしている。	自分のよりよい生き方について関心をもち、テーマに基づいた体験活動や調査活動等に意欲的に取り組もうとする。また他者の意見を聞き、見方や感じ方・考え方、意図等を自分の考えや表現と比べ、積極的に言葉遣いなどを工夫し、考えを深め、まとめようとしている。	自分の考えをペアや小グループで伝え合うことで、自分の考えを発展させ、深めた考えを、文章や言葉で分かりやすく伝えようとしている。また発表後は、社会の一員として自覚をもって行動しようとしている。

5 指導計画（70時間）（課）…課題設定力（学）…学習に主体的・協同的に取り組む態度（自）…自分の生き方

学習過程	活動内容	○指導のポイント ☆関連する教科等	評価
【1次学習】 20時間 課題の設定 (5時間)	【ガイダンス】 ・全体、学年テーマ、ねらい、学習の進め方について知る。 ・「人のため、社会のために何ができるか」のテーマでどのように課題を導き出したらよいかの考え方を昨年の例も参考に考えてみる。 ・1次から3次学習までの課題の設定の仕方や学習内容や体験学習や調査活動の機会、まとめ方、話し合い、発表の仕方について理解する。 ・1次学習の見直しをもつ。(5時間分ごとに見直す) 【自分の力を把握する】 ・本学習において発揮できる力を確認する。 【1次学習テーマを検討する】 ・前年度の例を見て、ねらいや調査活動についての工夫点を検討する。 ・現在社会の問題点や考えを発表し、テーマを仮決定する。	☆国語科「聞くこと」：説明を聞いて、質問や助言ができるよう復習し、話し合い活動の手順を確認する。 ○興味のある内容に出会った時は、学習シートにメモや付箋を付けさせる。 ○自分の考えを分かりやすく表現できるように助言する。「私の考えは・・・」「私は・・・のように考えます」等の発表の仕方を復習させる。 ○自分が身に付けている力(特に国語の力)について考えさせる。 ○例で示された内容と自分の課題を比較させ、参考になる点を個人及び生徒間で検討させ、自分のタイトルを付けさせる。	○3年間のテーマの結び付き等を明確に把握しようとしている。(課) ○学ぶ意義や意味を理解し、よりよい自分の生き方を探ろうとしている。(学)

情報の収集 (2時間)	【自分の生き方に誇りをもつ人との出会いから学ぶ】 ・その人の生き方、考え方について等、参考になる点、もっと知りたい点などをまとめる。 ・考えたことを小グループで伝え合い、自分の考えを深め、発展させる。	☆国語科「話すこと・聞くこと」: 話を聞き、自分の気付きや仲間の発表から発見したことなどを、書き留めさせる。	○1次学習では、歴史的人物や偉人、地域人等から学び取り、自分の生き方と比較しながら、自分のよりよい生き方について考えようとしている。(自)
(3時間) 整理・分析	【異時代、異地域の人や生活から学ぶ】 ・その人の生き方、考え方についてまとめ、自分の生き方や考えと照らし合わせ、まとめる。 ・考えたことを小グループで伝え合いながら、さらに自分の考えを深め発展させる。	○視点を絞って、話し合いを深めさせる。 ○お互いの考えを生かし合う。またテーマとの適合性はとれているか、確認しながら話し合わせる。 ○考えがまとまらない生徒には、導き方を個別に支援をする。	○課題意識をもって、人と交流しようとしている。(課)
(5時間)	【修学旅行事前学習レポート「異時代、異地域の人、生活や文化から学ぶ」を作成する】	☆国語科「書くこと」: 調査した事項を正確にまとめる。また自分の考えに関連付けて書かせる。	
まとめ・表現 (3時間)	【小グループでのまとめ発表会を行う】 ・お互いの考えを伝え合い、自らの考えを発展させる。	☆国語科「話すこと」: 書いたことを伝える時に、言葉を変換させる点や強調する点などを書き加えさせ、考えの伝え方を工夫させる。仲間の意見を聞いたり、質問したりして、自分の意見を発展させる。	○自分の考えと仲間の考えを比較したりふくらませたりして意欲的に取り組もうとしている。(学)
振り返り (2時間)	【1次学習の学びのまとめ、自分の生き方や考え方について考えを深める】 ・他者の感想や意見を取り入れてまとめを発展させる。	○相互評価した点から、修正する点を見付けさせ、発展させる。	
【2次学習】 25時間 課題の設定 (2時間)	【2次学習の見通しをもつ】 【体験学習で何を調査するか等、計画書を作成する】 ・計画案を発表し合い、アドバイスや感じたことを伝え合う。 ・自分の仮課題を見直し、発展できそうなことを、書き出し、整理する。	○四つの体験学習で自分が何を探究していくか考え、まとめて説明することにより自分の考えを深めさせる。 ☆国語科「書くこと」: 書いた文章を読み合い、表現の仕方について評価し、自分の表現に役立たせる。	○自分の生き方に迫る課題を設定するための手立てを見付けようとしている。(課) ○聞き手が「知りたい」と思うように伝え方を工夫しようとしている。(学)
情報の収集 (10時間)	【校内ボランティアに参加する】(2時間扱い) 【保育園実習(技術・家庭科)を行う】(3時間扱い) 【高齢者との交流から学ぶ】(3時間扱い) 【いのちを大切に考える学習】(2時間扱い)	○体験や調査した事実を正確に理解し、まとめさせる。	
整理・分析 (8時間)	【それぞれの体験学習から、自分の生き方や考え方に影響することや参考になったことをレポートや文章にまとめる】	○仲間と議論を深め、解決策に至る自分の考えを文章にさせる。	○自分の考えを分かりやすく、聞き手に伝えようとしている。(自)
まとめ・表現 (3時間)	【体験から学んだことを自分の生き方や考えと照らし合わせ発表する】 【予想や仮説の検証方法等の手法を学習する】 ・自分の発表や仮説と検証方法を討論しながら考えを深める。	○聞き手に的確に分かやすく伝えさせる。聞き手が聞きたくなくなるような伝え方、まとめ方をさせる。	
振り返り (2時間)	【2次学習の学びをまとめ、自分の生き方や考えを表現させる手がかりを見出す】	○振り返りカードで自分の考えの変化をまとめさせる。	
【3次学習】 25時間 課題の設定 (3時間)	【学習の振り返りを発表し課題発展の手がかりを確認する】 ・学習の振り返りについて、班員の発表を聞き、評価した内容を相手に分かりやすく伝える。班員の着眼点や伝え方の良い点を自分の学習の手がかりにする。 ・班員からの評価を聞き、自分の課題を発展させる。 【社会の問題や事象を考え、自分ができることや生き方と結び付け、最終課題を決定する】 ・メモ書き→書き言葉(文章)→話し言葉(伝える言葉)に発展させる。	○様々な体験や調査により自分の考えが深まった点をまとめ、発信させる。 ○班員の発表等から課題のとらえ方や考え方を自分と比較したり、様々な関わりを推察したりして考えさせる。 ☆国語科「書くこと」: 目的に応じて文章を書く。 ○聞き手が分かりやすいように、伝え方を工夫させる。	○自分の生き方に関する課題を設定しようとしている。(課) ○課題に迫るための情報を収集しようとしている。(課)
情報の収集 (7時間)	【地域貢献活動準備のための計画書の作成をする】 【地域ボランティア活動を行う】 ・必要な情報の収集を行う。	○不足の情報や調査事項を確認させ、目的意識をもってボランティアを計画させる。	
整理・分析 (10時間)	【論文報告会の準備を行う】 ・「人のため、社会のためにできることは何か」のテーマで自分の生き方、考えを文章に表現する。 ・400字詰原稿用紙10枚(4000字)の論文にまとめる。(掲示、プレゼンテーション等の発表者は、論文5枚) ・文章の割り振りを考え、書きたいことを整理する。 ・文章にまとめ、毎時間、中間発表をし、相互評価する。 ・発表→意見交換→訂正→まとめを3度行い、考えを深める。	☆国語科「書くこと」: 指示語、接続語、助詞・助動詞や敬語の使い方に留意して文章を構成する。 ☆国語科「話すこと・聞くこと」: 仲間のスピーチを聞いて自分の表現の参考にさせる。 ○毎時間書いたところまでの考察を発表させ、意見を出し合い、修正させる。	○自分の考えをペアや小グループで伝え合うことで、自分の考えを発展させ、深めた考えを、文章や言葉で分かりやすく伝えようとしている。また発表後は、社会の一員として自覚をもって行動しようとしている。(自)
まとめ・表現 (5時間)	【本発表の形式を選択し、実現に向けて、準備を行う】 ・発表会(学年、全校、掲示、応募等)から選択する。 【自分の考えを分かりやすく伝える】	○印象に残る発表になるよう表現を工夫させる。 ○発表の仕方を工夫させる。	

6 指導の工夫

(1) 言語活動を重視した、自分の考えを引き出すための指導：国語の学習「書くこと・話すこと」との連携

課題設定に向けた活動

テーマに関連した内容で、思い付いた言葉やアイデア(考え)を数多くメモに取り、ワークシートに記入したり、付箋を付けたりする。

メモにした内容を繋げたり、まとめたりして「書き言葉(文章)」に発展させる。

「話し言葉」に変換する部分に印を付けたり書き加えたりして、「伝える言葉(話し言葉)」に直し、原稿をつくる。

班内で自分の考えを発表する。

班員と相互評価し、自分の考えに書き加えたり修正をしたりし、課題を決定する。

メモ書き→文章にする→伝える言葉に変える→発表(2~3回行い、考えを深めさせる)

班員と相互評価し、書き加え、修正をする。

班内で相互評価し合い、思い付いたことを付箋に書留めながら学習する

総合的な学習の時間 ワークシート 3次学習-1 3年(1)組(1)番 氏名()

テーマ：全体「生きる」=3年テーマ「人のため、社会のため何が出来るか」

学習の目標：つづける力「自分の考えに基盤を持たせ、繋げる力 ②他校や考えを伝える力」をつづける

学習内容：3次学習課題の課題を設定する前に...

1 今後の学習について

(1) 1次学習

自分の生きかたに関わりを持つ人との出会い (東川清彦、宇治次) さんから学ぶ

2次学習

異文化、異地域の人や生活との出会い (坂本竜馬) から学ぶ

3次学習

高齢者の出会い (ササキの健) 松岡正剛(くまがは上休斎園) ポラリス(北沢清彦) から学ぶ

2 1次、2次学習の中から3年全体テーマ「人のため、社会のため何が出来るか」を基に、自分の考えをまとめる。

3 相互評価し、伝え合う一歩からの課題を設定し、自分の考えを発表する。

4 仲間からのアドバイスを参考に課題を設定する。

3次学習の課題設定時に活用するためのシート

小グループによる討論会での書き込み



総合的な学習の時間 ワークシート 3次学習-2 3年(3)組(1)番 氏名()

テーマ：全体「生きる」=3年テーマ「人のため、社会のため何が出来るか」

学習の目標：つづける力「自分の活動(行動)に共通する考え、伝える力」をつづける

学習内容：3次学習課題を設定する前に...

1 自分たちの活動(行動)に共通する考えをまとめる。

2 3次学習の課題を設定する。

3 1、2について発表し、相互評価し伝え合う一歩からの課題を設定し、自分の考えを発表する。

4 自分たちの活動(行動)に共通する考えをまとめる。

(2) 言語活動を重視した考えや意見を文章にすることの指導：国語の学習との連携(文章を効果的に構成すること、文法の正しい使い方等)

論文の作成に向けた活動

着想：「書きたいこと」「伝えたいこと」等を考え、メモや付箋に記入し、大まかに構成する。

構想：内容を具体的に考える。(材料・調子・量等)

執筆：書き方の条件を踏まえて文章に発展させる。(下書き)

推敲：声に出して読み、違和感のある部分の修正を行う。(書きたいことが書かれているか、段落、主語-述語、副詞等)

清書

総合的な学習の時間 ワークシート 3次学習-4 3年(1)組(1)番 氏名()

テーマ：全体「生きる」=3年テーマ「人のため、社会のため何が出来るか」

学習の目標：つづける力「書く力、伝える力」をつづける

学習内容：文章(論文)の構成...

論文の構成

(1) 序言(15ページ)

(2) 本論(15ページ)

(3) 結論(15ページ)

(4) 参考文献(15ページ)

(5) 謝辞(15ページ)

(6) 参考文献(15ページ)

(7) 謝辞(15ページ)

(8) 参考文献(15ページ)

(9) 謝辞(15ページ)

(10) 参考文献(15ページ)

(11) 謝辞(15ページ)

(12) 参考文献(15ページ)

(13) 謝辞(15ページ)

(14) 参考文献(15ページ)

(15) 謝辞(15ページ)

(16) 参考文献(15ページ)

(17) 謝辞(15ページ)

(18) 参考文献(15ページ)

(19) 謝辞(15ページ)

(20) 参考文献(15ページ)

論文作成にあたって、文章を構成するためのシート

事例2 <探究的な学習> 課題の設定を工夫した事例

本実践例のポイント

本校の総合的な学習の時間では、第1学年で「自然・環境」、第2学年で「福祉」、第3学年で「国際理解」と学年毎にテーマを設定し、探究的な学習を進めている。本実践例では、第1学年で実施するスキー実習の機会を活用して、総合的な学習の時間で学んだ内容を探究できるよう指導計画を作成している。また本校では、「自ら課題を見付ける」という過程が特に大切であるという職員の共通理解のもと、探究活動を深めるために、二つの単元を二つのサイクルに分けている。1サイクル目に「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」として一通り課題解決的学習の流れをグループで押さえさせ、2サイクル目で個人の具体的な課題が設定できるよう工夫している。さらに、講演会の実施やゼミ形式の講義を行うなど、生徒の興味・関心を高めたり、体験活動を取り入れたりすることで、自ら考え、主体的に判断し、適切な課題の設定ができるよう工夫している。

1 単元名 埼玉県と長野県の違い ～ スキー実習の機会を活用して ～ (50時間) 第1学年

2 単元目標

- 長野県と埼玉県の自然や文化などに関心をもつ。
- 様々な方法で情報収集を行い、探究して得られた有用な情報を校内や地域機関に発信する。
- 様々な違いについて受容する態度を養い、これからの自分の生き方に生かす。

3 単元設定の理由

本単元では、①自然環境や生活様式の違いに目を向け、主体的な課題を設定すること。②協同して情報収集を行うことで、目的に応じた情報収集の仕方を身に付けること。③課題解決を図る過程で他の生徒や教師などからの意見を聞き、コミュニケーション能力を身に付けること。④学習した内容をまとめ、受け手側に立った発信方法を身に付けること。を通して、様々な違いを受容する態度を身に付けさせ、これからの学校生活や自らの生き方に役立たせたいと考え、本単元を設定した。

本校では総合的な学習の時間を横断的・総合的な学習に加えて、探究的な活動を通して、主体的、創造的、協同的に取り組み、自己の生き方を考える機会にしたいと考えている。そのためには、自分自身が本当に探究したい適切な課題を生徒が自ら見付けることが重要であると考え、「課題の設定」の際に講演や協議、体験活動を取り入れている。そして、長野県で行うスキー実習を体験活動が可能な一つの機会とらえ、課題にそってホテルやその周辺で生活する方にインタビューを行う。夜に地元の方の話を伺う中で、自ら設定した課題について解決を図り、様々な違いについて受容できる態度を養い、日常生活に生かせるよう指導していきたい。

4 単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者と社会との関わりに関すること
評価規準	体験学習や資料や講演会に関心を持ち、適切な情報収集や、そこから得た情報を主体的に、必要な情報を取り出し、整理・分析し、分かりやすくまとめ、表現しようとする。	自ら考え、主体的に判断しよりよく問題を解決しながら、他者の理解を図るとともに、自分自身の生活を見つめ直し、学習した内容を実生活に生かそうとする。	自分の住む埼玉県と長野県を比較し、自然や環境の違いについて関心をもつ。また、スキー実習では長野県で生活をしている方に接し、学習内容を確認するとともに、学習内容を地域の方に提示し、その意見を基に、自らの生き方を考える。

5 指導計画 (50時間)

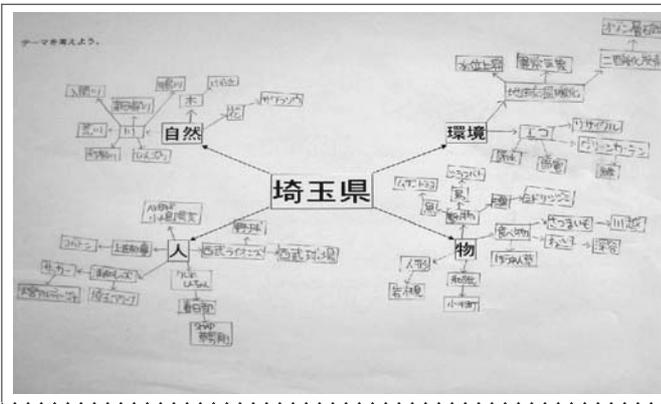
学習過程 (時間数)	活動内容	○指導のポイント、☆関連する教科等	評価規準
課題の設定 (5時間)	1 事前アンケート 2 総合的な学習の時間の進め方について	○学習の進め方について資料を示し、概要を理解させる。	・資料や講演会に関心を持ち、主体的に適切な情報収集を行おうとしている。(学) ・自然や文化に興味を持ち、主体的に課題を設定しようとしている。(学)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 埼玉の自然や文化について調べよう。(1サイクル) </div> 3 「埼玉県の自然環境」 NPO法人 ○○ ○○ 様より 講演会 4 埼玉県の自然や文化について課題意識をもつ。(ゼミ形式の授業)	○疑問に思ふ内容をまとめ、フリップボードを準備して質問をさせる。質問前にチェックリストで手順等を確認させておく。 ○体験活動を行う準備を担当教員に伝える。	

	<p>① 埼玉県観光地を知ろう。 ② 埼玉県の数字を探ろう。 ③ 埼玉県の自然を知ろう。 ④ 地域の歴史を探ろう。 ⑤ 埼玉県や市の姉妹都市を知ろう。</p> <p>5 ウェビングを行う。</p> <p>6 課題を設定する。</p>	<p>☆担当の教諭が教科(社会、数学)の特徴を生かして、授業を行い、共通の学習を進める。</p> <p>○ウェビングを行い、自分たちがもっている埼玉県の自然や文化についてまとめ、課題につなげる。</p> <p>○設定した課題は、調べる価値があるか、調べることが可能か、校内や地域に発信すべき内容かを生徒に考えさせる機会を設定する。</p> <p>○課題設定が思うように進まない生徒にはウェビングや意識調査から考える、課題を例示する等の指導・援助を行う。</p> <p>○個人の課題からグループの課題を設定する。(関連ある課題をもとに、4～6名のグループを編制する。)</p>	<p>・主体的に課題を設定しようとしている。(学)</p>
情報の収集 (8時間)	<p>1 埼玉県の自然や文化等を調査する</p> <p>① 埼玉県の人の意識調査。</p> <p>② 学校図書館や公立図書館、インターネットでの情報収集</p>	<p>○調べてみたい情報が何かを確認させる。</p> <p>○家族や地域の方、県内に住む知り合いに意識調査をしてまとめ、自分たちの考えと比較させる。</p> <p>○図書館やインターネットで調べたことを基にして調査項目を考えさせる。</p>	<p>・目的を明確にして適切な方法で情報収集をしようとしている。(学)</p>
整理・分析 (5時間)	<p>1 図やグラフ、マップ等を作成する。</p>	<p>☆適切な整理・分析(国語、数学、社会、美術)か確認し、必要に応じて指導を行う。</p>	<p>・必要な情報を整理・分析し課題解決を行っている。(学)</p>
まとめ・表現 (7時間)	<p>1 新聞を作成する。</p> <p>・表現、構成について工夫する。</p> <p>・推敲を重ね、適切な文章を作成する。</p>	<p>☆適切な表現(国語)、グラフや図(数学、美術)を使用できるように指導する。</p>	<p>・主体的に問題を解決しながら、自分自身の生活を見つめ直そうとしている。(自)</p>
課題の設定 (5時間)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 埼玉県と長野県の違いについて調べよう。(2サイクル) </div>		
	<p>1 課題を設定するための情報収集</p> <p>① 学校図書館や公立図書館での情報収集</p> <p>② インターネットにより情報収集</p> <p>③ ファクシミリや手紙による情報収集「長野県観光部、環境部及び林野部等」</p> <p>2 KJ法的な手法でまとめる。</p> <p>3 問題を序列化する。</p> <p>4 課題を決定する。</p>	<p>○必要な情報をあらかじめ確認させる。</p> <p>・図書分類法による検索、情報源のメモの取り方を確認させる。</p> <p>・コンピュータ室利用のきまりを遵守させる。</p> <p>・長野県の関係部署に事前に教員から連絡しておき承諾を得ておく。</p> <p>○集めた情報をKJ法的な手法でまとめる。</p> <p>○教師は常に相談を受けられる体制にし、適切な課題かどうかを判断し助言を行う。</p> <p>○スキー実習時の課題解決について見通しをもたせる。</p> <p>○訪問先で、適切な課題解決が図れるよう実態に応じた方策を考えさせる。</p>	<p>・埼玉県と長野県を比較し、自然や環境の違いについて関心をもっている。(他)</p>
情報の収集 (3時間)	<p>1 スキー実習で、埼玉県と長野県の違いを確認する。</p> <p>2 ホテルや周辺の方にインタビューを行う。</p> <p>3 夕食後に、地元の方のお話を伺う。</p>	<p>○実習中における調査について確認する。</p> <p>・安全面に十分留意し課題を常に意識する。</p> <p>・事前に準備した課題解決を実施する。</p> <p>○自分課題について、実習の合間や実習後の時間に出会う地元の方に、積極的に接し、情報を収集させる。</p> <p>○疑問に思う内容をまとめ、フリップボードを準備して質問をさせる。質問前にチェックリストで手順等を確認させておく。</p> <p>○事前に地域の観光協会等と連絡を取り、地元の方を宿舎に招待して話を伺う時間を設定する。</p>	<p>・学習内容を地元(長野)の人に示し、インタビュー等を行い、適切な情報収集をしようとしている。(学)</p>

整理・分析 (7時間)	1 SWOT 分析やメリット・デメリットを考えさせる。	○SWOT 分析もメリット・デメリットを考えさせるのも、埼玉県と長野県を比較するための手段であり、どちらかを否定することではないことを生徒に意識させる。 ○あくまでも自然や文化の違いに気付かせるためのものであり、メリットも見方を変えればデメリットであり、デメリットもメリットととらえることができることを押さえる。	・埼玉県と長野県を比較し、それぞれのよさや違いについて気付き、他者の理解を図ろうとしている。 (自)
まとめ・表現 (8時間)	1 同じテーマに分かれて、プレゼンテーションの準備をする。 2 発表のためのリハーサルを行う。 3 プレゼンテーションを行う。 4 発表やこの単元のまとめをする。	○プレゼンテーション用のソフトを使いまとめる、紙にまとめるなど、整理分析したことを分かりやすく発表できる方法を選択できるようにする。 ○この単元の反省を行う。	・単元を通して学んだことを基に自分の生き方を考えている (他)

6 指導の工夫 課題の設定を工夫した事例

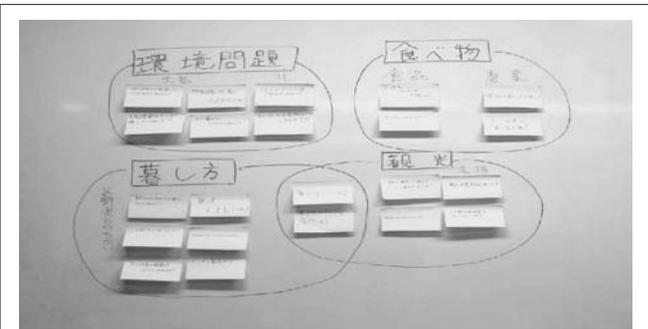
(1) ウェビング



ウェビングでまとめると、「埼玉県」がたくさんのこととつながっているのが分かった。友達も、自分とは違うことを連想していることが分かりおもしろかった。

ウェビングを基にした話し合いを通して、友達の考えと比較して考え、自分やグループの課題を明らかにするとともに、課題解決の方法・手法を身に付けることができた。

(2) K J 法的な手法



長野県には、埼玉県にはない環境問題がたくさんあることに驚いた。また、観光資源も豊富であり、それは、気候や地形が違うのではないかとということが、友達との話し合いで分かってきた。

体験活動などを通して生まれた気付きや疑問を、類型化して課題を見出すことで、埼玉県と長野県の違いやその理由が浮き出てきた。

(3) 問題解決の序列化



埼玉県と長野県の違いはたくさんあり、みんな調べたいけれど、スキー実習に行つて地元の人に実際に質問できることを優先的に取り上げたいです。足りないところは、帰ってきてから調べられるかな。

キーワードとタイトルを書き出し、「実現可能か」「社会的に価値があるか」「整合性はとれているか」などの視点で話し合わせることにより、調べたいことが明確になり、調べることの意欲も高まった。

事例3 <探究的な学習> 情報の収集を工夫した事例

本実践例のポイント

各学年のテーマを第1学年「郷土に目を向けよう」第2学年「世界に目を向けよう」第3学年「未来を考えよう」とし、第1学年では地域のことを学び、第2学年では地域から世界に目を向け、第3学年では自分の生き方について考え（よりよく生きようとする）提言する力を育成したいと考える。

本実践例は第2学年において「大使館訪問」の体験学習から自国を理解し、諸外国を知るために様々な手段で情報を収集できる能力とそれらを活用する能力の育成を図る事例である。

1 単元名 世界に目を向けよう ～はじめての大使館訪問～ (70時間) 第2学年

2 単元目標

- 日本の伝統や文化を理解し、日本人としての自覚をもち、自信をもって大使館を訪問することができる。
- 諸外国の異文化を知ることによって日本と国際社会との関わりについて理解させ、共生を目指す活動に取り組む。
- 情報や資料を主体的に収集・選択し、分析する力や工夫して表現する力を身に付ける。
- 協同的な取組の中で主体的に活動する。

3 単元設定の理由

これまで第2学年の校外学習を修学旅行の事前学習という位置付けで都内の観光地や施設見学、鎌倉の寺社巡りなどが実施されていた。そこで校外学習を「総合的な学習の時間」の体験学習の企画とタイアップさせて第2学年のテーマである「世界に目を向けよう」(国際理解)から「諸外国の大使館訪問」を中心とするものとし、その活動から日本と諸外国について学び、日本と国際社会との関わりについて理解させたい。また、体験学習を行うことで今まで身に付けた情報収集能力を生かし、情報を集め、情報を発信する等、活用する力を使い、自分の将来を考えるために自ら学んで自ら考える力を高めるため本単元を設定した。

4 単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と諸外国の伝統や文化はどのようなものであり、どのような特徴があるかを調査している。 ・大使館と連絡を取り合い協同的に学んだり、自立して学んだりしている。 ・学習や大使館訪問で得られた結果を相手に分かるように伝え、表現し、発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同的な活動を自らの課題として考え学び、自分の良い点や学びの高まりに気づき、他者から学ぼうとしている。 ・体験から自分の国の将来の事を考え、そのために必要なことに取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸外国との関わりについて理解し、国際社会の一員としての自覚をもち積極的に社会に参加しようとする。 ・自分の将来を考えるために報告や友達の意見を参考にしようとする。 ・将来の目標に向けて行動しようとする。

5 指導計画 (70時間) (学) …学習方法に関すること (自) …自分自身に関すること (他) …他者や社会との関わりに関すること

学習過程 (時間数)	活動内容	○指導のポイント ☆関連する教科等 【 】については6を参照	評価
課題の設定 (10時間)	1 国際理解ガイダンスに参加する。 (国際理解について考える) ・講演を聞く。	○個人の課題の質を高めるために教師が意図した学習を効果的に生み出すために講座を開設する。生徒が興味・関心をもって課題を決定できるようにする。	○諸外国との関わりについて理解した上で国際社会の一員としての自覚をもち、積極的に社会に参加しようとする。(他)
共通理解	2 世界から学ぶ。 (国際理解の内容を深める) ・各講座を受講する。 ①途上国の現状を知ろう ②食から世界を考えよう ③ジェスチャーを調べよう ④世界の数学に触れよう ⑤世界の民族楽器を知ろう	☆社会科 (世界の様々な地域の調査) ○学年の中で講座を設定し、学級単位で講座を受けさせる。教師は大まかな授業のイメージを学年会で共有し、全体計画を意識する。 ○国際理解に関わる学習では次のことを意識させる。 ・日本の伝統や文化の特徴と日本人としての自覚 ・世界の国々の伝統や文化の特徴 ・異なる文化との共生を目指す活動や取組	

	⑥ユニセフ出前授業 3 課題決定を設定する。	○外国に関する課題を決めさせる。興味をもったものを課題にできるよう資料を収集させる。	
情報の収集 (10時間)	1 諸外国についての理解を深める。 2 グループごとに学習活動する。 ・外国に関する興味・関心のある国について調べる。 ・日本についても第1学年での学習を振り返り、伝統と文化をまとめる。	○多様な方法により情報を収集させる。 ・学校図書館や公立図書館において情報の収集をさせる。 ・学校図書館の整備 ・インターネットによる情報の収集 ☆技術・家庭科・・・基本的な情報処理の仕組みを知ることとの関連 ・アンケート調査 ☆国語科・・・質問し聞き取ることとの関連	○日本と諸外国の伝統や文化はどのようなものであり、どのような特徴があるかを調査している。(学)
整理分析 (8時間) まとめ 表現	3 集めた情報を比較、分類、関連付け等情報の整理と分析を行い、大使館で聞いたことを決める。	○思考力・判断力・表現力を向上させる。 ・コンピュータに蓄積させる。 文書、映像、画像等 ICT を積極的に活用させるとともに、情報の共有化を図らせる。 ☆技術・家庭科・・・ICTの活用との関連	
課題の設定 (10時間)	1 個人課題と体験先を決定する。 ・諸外国の大使館訪問 ①計画、準備を行う。 ②訪問予約を行う。 ③質問内容を決める。 ④訪問計画を立てる。 ⑤国を調べる。 2 自分の課題、調べたい国、その国の何を課題にしているのか、グループで決める。	・今までの全体学習の成果をもとに、調べてみたい国を決めさせる。 ・協同的な活動の中でも個人課題をもち、学習に取り組みさせる。 【現地で情報を収集する準備】 ・フリップボードを提示してインタビュー ☆国語科・・・社会生活の中から教材を集め整理することなどとの関連 ☆技術・家庭科・・・フリップボードの代わりにタブレット型端末を活用する(情報の蓄積、表示、共有化) ・インタビューによる情報の収集 ☆英語科(英語での質問の文章「questions list」を学び、訪問の準備をする。)	○協同的な活動を自らの課題として考え学び、自分の良い点や学びの高まりに気づき、他者から学ぼうとしている。(自)
情報の収集 (10時間)	1 訪問先と連絡を取り合う。 ・事前に目的を明確にしておく。自分の考えを伝えてから相手の情報をもらうようにする。 2 相手への配慮を忘れない。 ・事前に電話をし、メールやファックスを送ることを伝える。 ・読み手を意識し、読みやすいように丁寧に記入する。 ・回答をいつまでお願いしたいか期日を記入しておく。 3 大使館を訪問する。 ①時間を守る。	【連絡を取る手段の工夫】 ・電話で情報を収集 相手の反応、答えを予測し、更に詳しく聞くための質問も考えさせておく。マナーへの配慮をさせる。 ・電子メールで情報を収集 相手に意図が伝わる内容か読み返し、確認させる。 コンピュータウイルスやプライバシーの保護にも注意させる。 ・ファクシミリで情報を収集 図や表を添えることもできる。また、手紙よりも時間をかけずに必要な情報を収集できる。 ・手紙で情報を収集 電話やファクシミリに比べ時間がかかるが丁寧な情報収集の手段と考えられる。 ○外部連携のための留意点を理解させる。	○大使館と連絡を取り合い協同的に学んだり、自立して学んだりしている。(学)
整理分析			

(2時間)	<p>②服装を正す。</p> <p>③挨拶をきちんと行う。</p> <p>④聞く態度、見学する態度に気を付ける。</p> <p>⑤撮影する時は許可をもらう。</p> <p>⑥質疑応答の準備をして有意義な時間にする。</p>	<p>・適切な打ち合わせの実施</p> <p>外部との連携のために適切な対応を心がけるとともに授業のねらいを明確にし、教師と連携先との役割分担を事前に確認するなど十分な打ち合わせをする必要がある。</p> <p>・学習成果の伝達</p> <p>学習発表会などの開催を通知したり、学校だよりの配布、お礼の手紙、まとめたものを送るなど保護者や地域、お世話になった人々に総合的な学習の時間の成果を発表する場と機会を設ける。</p>	
まとめ 表現 (18時間)	<p>1 調べて分かったことをまとめる。</p> <p>・ファイルに情報を集積する。</p> <p>・ICTの活用 (ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、画像編集ソフト、コンピュータ、タブレット型情報端末、デジタルカメラ、ビデオ)</p> <p>・発表方法の検討 (模造紙、実演、紙芝居、プレゼンテーションソフト)</p> <p>・レポート、ジオラマ(模型)</p> <p>・情報の整理、分析を行い、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行う。</p>	<p>【情報の集積と蓄積】</p> <p>・情報の共有化</p> <p>フォルダを作成し資料を内容ごとに整理し、データを共有できるようにさせる。グループに一台あるとそれぞれのデータを共有しやすい。</p> <p>○目的のあるまとめをさせる。</p> <p>・自分の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になり、新たな課題が生まれたりしてくる。これは質的に高まることであり、深まりのある探究活動を実現することにつながる。</p> <p>・相手意識や目的意識を明確にして、誰にどのようなことを伝えたいか明確にさせる。</p> <p>・伝えるための具体的な表現方法を考え、内容を明らかにさせる。</p>	<p>○自分の将来を考えるために報告や友達の意見を参考にしようとする。(他)</p> <p>○将来の目標に向けて行動しようとする。(他)</p> <p>○学習や大使館訪問で得られた結果を相手にわかるように伝え表現し、発信する。(学)</p> <p>○体験から自分の国の将来を考え、そのために必要なことに取り組もうとする。(自)</p>
発展 (2時間)	<p>2 日本の伝統文化についての学習をすることを学ぶ。</p>	<p>○これまでの学習の成果を生かし、第3学年での学習活動につなげる。</p> <p>○修学旅行に向けて日本の伝統文化についての学習につなげる。</p>	

6 指導の工夫

(1)学校で情報を収集する方法

ア 学校図書館や公立図書館を利用する。

学校図書館の環境を整える。静かに閲覧するコーナーとグループで話し合えるコーナーを用意する。

学校図書館では揃わない情報を公立図書館に行って資料を収集させる。コンピュータによる検索を利用する場合、短時間で検索ができるよう事前に必要な書籍の情報を調べさせる。公立図書館の担当職員に事前に連絡して準備しておくことも必要となる。

イ インターネットを利用する

必要な情報を簡単に入手できる。一方、著作権への配慮、得た情報の信憑性の判断、情報モラル等に十分配慮させる。情報化社会で適切に行動できるよう指導する。

インターネットによる調べ学習で終わらせないよう実際に調査活動に必要な資料を収集させる。

ウ アンケート調査を行う

諸外国について認知度、文化、伝統、興味の有無等について調査させる。その際、調査対象を明確にすること、短く分かりやすい質問文にすること、短時間で回答できるようにすること等について留意させる。

エ 連絡を取り合う

電話によるインタビュー等を行わせる。事前に何を聞くのか明確にするよう指導する。一方、自分と相手の時間が合わず、電話によるインタビュー等ができない場合は、電子メールやファクシミリ、手紙等を利用し、相手に分かりやすく文章を作成し、文面で情報を収集させる。



<タブレット型情報端末を用いて>

(2) 訪問先で情報を収集する方法

ア フリップボードを提示してインタビューする

インタビューの際、短時間で回答が得られるようフリップボードを利用させる。質問内容が分かりやすく伝わるだけでなく、言葉と併用できるため確実な情報収集につながる。自分の意図を理解してもらえよう文字やイラストを使い、分かりやすい提示をするよう指導する。ICTの活用としてタブレット型情報端末を用いて提示する方法もある。(上 写真参照)

イ インタビューを行う

インタビュー前にチェックリストで確認させ、情報を収集させる。必要な情報を得ることができるよう何を知るために行うかインタビューのポイントを押さえさせる。計画的に準備し、事前に連絡調整を行うとスムーズにインタビューが行えるようになる。

(3) 学校と訪問先と情報を共有する方法

ア タブレット型情報端末を使いインターネットやメール、SNSで情報交換を行う

直接会ったり、電話をすることが難しい相手と、リアルタイムで報告し合えるようにするため、簡単に持ち運べるタブレット型情報端末を用意する。必要とする生徒に持たせ、訪問先でもインターネットやメール、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス：ツイッターやフェイスブック等）を使用させる。PCを使用したスカイプ等のテレビ電話があれば、同じような交流を行うことができるので利用させる。訪問先で知りたい情報をキャッチして自分たちが得た情報をすぐその場で発信することができる。

<タブレット型情報端末でできること>

- デジタルカメラ、ビデオカメラ、メモ、録音、メール、SNS、テレビ電話、インターネット接続、プレゼンテーションなどが一台でできる。(インターネットやメール、SNS等は接続できる条件が必要)
- コンピュータに入れられるものならタブレット型端末に入れられるので情報を共有することもできる。(専用のプレゼンテーションを使えばプレゼンテーションを行うこともできる)
- 学校に戻ってからも保存してある情報を活用しまとめることができる。コンピュータを活用しても同様の情報収集は行えるが、簡単に持ち運べるので利用しやすい。

イ ファクシミリ、手紙による情報交換を行う

ファクシミリを用いると図や表を添えることもでき、手紙よりも時間をかけずに必要な情報を収集できる。回答をいつまでお願いしたいか期日を明確にさせる。

手紙を用いると電話やファクシミリに比べ時間がかかるが気持ちを丁寧に伝える等の情報交換の手段となる。返事をいただく場合は自分の宛先を記入した返信用封筒やはがきを同封させるようにする。

事例4 <探究的な学習> まとめ・表現を工夫した事例

本実践例のポイント

本校では大テーマ「共生」のもと、学年ごとに担当者がそれぞれのテーマを決めゼミを開講する。生徒は開講されたゼミから興味・関心の高いゼミを選択し、探究すべきテーマを設定し学習する。本実践例はその中の福祉をテーマにしたゼミを取り上げている。まとめ・表現活動の場面で、3分間作文、ネームカードによる話し合い、ロジック・ツリー、相互評価等を通して、生徒の経験や知識と学習活動により整理・分析された情報をつなげ、生徒の考えを明らかにする。さらにプレゼンテーションスキルを向上させることで、論理的に分かりやすく相手に伝えられるよう工夫した事例である。

1 単元名 高齢者福祉施設はくちょう園で学ぶⅢ～福祉～(35時間) 第3学年

2 単元目標

- ・様々な人との交流や調査活動を通して福祉について関心をもつ。
- ・幅広い視点をもって共に生きていくために必要なことを考え表現する。
- ・共に生きる「共生」という視点で自分にできることを実践しようとする。
- ・福祉に関する正しい知識をもととする。

3 単元設定の理由

本単元は「共生」の大テーマのもと開設された六つのゼミの中の「福祉」ゼミである。学習の流れとして①中学生として社会問題にどう関わればよいかを理解し、自らの課題としてとらえる。②課題解決を図りながら「自分が意識してできること」と「他の人の助けや協力がないとできないこと」を明らかにする。③「自分が意識してできること」は実生活で実行していく。④「他の人の助けや協力がないとできないこと」は、はくちょう園での活動の中で協同的に行っていく。①～④の段階を踏まえて学習していく中で、学んだことを基にして、将来の自己の生き方についての自覚を深めさせたいと考え、本単元を設定した。

ゼミ担当者のねらいは、以下の通りである。高齢者福祉についてはテレビ等でも取り上げられ、たくさんの子どもたちが考える機会があり、自分なりの考えをもっている。本ゼミでは、福祉全般にも目を向けながら、高齢者福祉だけに注目するのではなく、すべての人が幸せに生きることを考えるために、地域の社会福祉施設を訪問し、いろいろな体験を通して「私たちは今何ができるか」をじっくり考えさせたい。

4 単元の評価規準

本校では教科との関連を明確にした観点で評価規準を設定している。

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	・福祉についての関心を高め、様々な人との交流や調査活動に意欲的に取り組もうとする。	・幅広い視点をもって福祉について考え、共に生きていくために必要なことを考えられる。 ・自分の考えを適切な方法を選択して分かりやすく伝える。	・社会に生きる全ての人々がよりよく生きていくために自分にできることを考え実践する。 ・高齢者や障害者に対して自分の気持ちを表現し、適切な交流をする。	・福祉に関する正しい知識をもち様々な人の心情を理解する。

5 指導計画 (35時間) ※福祉ゼミの指導計画

学習過程 (時間数)	活動内容	○指導のポイント☆関連する教科等	評 価
ゼミの決定 (1時間)	1 ゼミの決定 ・共生を大テーマとした福祉、安全、情報、伝統、芸術、環境の六つのゼミの説明を聞き、自分の興味・関心の高いゼミを選ぶ。	○ゼミの担当者が、学習のねらい、活動内容、訪問場所等を分かりやすく説明することで見通しをもたせる。	・見通しをもってゼミを選ぶとしている。 (関意態)
ガイダンス 共通授業 (2時間)	2 「福祉」について ・単元のねらいと進め方を知る。 ・「福祉」について考える。 3 「はくちょう園」について ・「社会福祉施設」について知る。	○ウェビング・ブレインストーミング等から福祉について考えさせ、イメージをふくらませる。 ○ワークシートへの記入(印象,期待していること等)を行い、学習の見通しをもたせる。	・意欲的に取り組もうとしている。(関意態) ・社会福祉施設について理解している。(知理)
課題設定 (4時間)	4 はくちょう園でのオリエンテーション ・園長さんのお話を聞く。 ・注意事項を確認する。 5 課題設定 ・個人でもグループでもテーマを設定してよい。 例：はくちょう園の方とどのようにコミュニケーションをとれば意思疎通が効果的に図れるだろうか。 ・決めたテーマを基に学習活動を進める。	○今までの共通授業をもとに、個人またはグループでテーマを考えさせ、探究活動を行わせる。 ○課題解決のための具体的な方法を考えさせる。 ☆社会科「人権と共生社会」と関連させる。 	・進んで園の人々や職員の方と触れ合おうとしている。(関意態) ・設定した課題を自分のものとしてとらえている。(技能)
情報の収集 整理・分析 体験学習 (16時間)	6 はくちょう園での活動 ・スキップを図り、回を重ねるごとに交流を深めていく。 7 1日総合活動日 ※1日総合活動日とは、全校一斉に1時間目から6時間目まで、総合的な学習の時間にあてるものである。 ・今までの学習をより深めるために課題を明確にした活動を行う。	○毎回の活動で、気付いた点や大切なことをワークシートにまとめさせる。 ○その場限りの活動にならないように課題を確認させ、準備を計画的に行わせる。 	・触れ合いや自分にできる活動を行おうとしている。(技能) ・自分の気持ちを表現し、交流を深めようとしている。(思判表)

<p>まとめ (6時間)</p>	<p>① プレゼンス(思い)「社会福祉施設は今こういう状況にあることを知ってほしい」等の思いを明確にする。 →「3分間作文」「ネームカードによる話し合い」の活用</p> <p>② シナリオスキル(何を伝えるか) 原稿を読むのではなく、自分の言葉で話せるようにする →ロジックツリーの活用</p> <p>③ デリバリースキル(どのように伝えるか) 表情・視線・話し方等を工夫して伝わりやすくする。 →プレゼンテーション評価カードの活用 ※「6指導の工夫」を参照</p>	<p>8 発表会に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つのプレゼンテーションスキル ①プレゼンス ②シナリオスキル ③デリバリースキルを意識して発表の準備を行う。 <p>3分間作文 ネームカードによる話し合い</p> <p>プレゼンテーションスキル 向上!</p>	<p>○3分間作文で今までの調査や体験してきたことを自分なりの言葉でまとめさせる。</p> <p>○ネームカードによる話し合いで、自分の考えをさらに深めさせる。</p> <p>○1年生でのスキル学習を思い出させ、壁新聞、レポート、プレゼンテーションソフト等様々な表現方法から準備を進めさせる。</p> <p>☆国語科の言語活動と関連させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを的確に表現している。(思判表) ・1年生でのスキル学習を思い出しながら準備している。(技能)
<p>表現 (4時間)</p>	<p>9 発表会(卒論発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの探究活動の結果や自分の考えを伝える。 <p>ロジックツリー プレゼンテーション評価カード</p>	<p>○ロジックツリーでまとめた内容を分かりやすく伝えられるようにさせる。</p> <p>○プレゼンテーション評価カードで、聞いている生徒にも主体的に関わらせる。</p> <p>○質問をさせたり、自分の成果と比較させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを適切な方法を選択して、分かりやすく伝えようとしている。(思判表) ・今後の生活に生かそうとしている。(関意態)
<p>評価 (2時間)</p>	<p>10 ポートフォリオによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを整理して自分の成長を振り返る。 	<p>○今までの取組を振り返らせ、自分の考え方の変化をまとめさせる。</p> <p>○このゼミでの活動を通して、自己の生き方につなげられたかを評価させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉について自分の学びがどれだけ深まったかを確認している。(思判表)

「福祉はくちかう園で学ぶ」・・・成長エントリ (No.)

年 組 () 名前

今までふれ合い活動をしてきた過程で、今までにない自分を発見したり、以前に比べて成長した所などについて振り返ってみよう！
また、今後の生活に生かしていこうと思うことは何ですか？

訪問する前の自分 (得意・人間関係・性格・長所・短所)・興味関心	影響を受けたこと・場面・人・気づいたこと・発見したこと	ふれ合い活動を通して、成長した点や、今までにない自分の発見	今後の生活に生かそうと思うこと・生かせる場面。あるいは、今後の努力点は・・・
<p>「福祉」という言葉を、本然ととらえていた。</p> <p>人と対峙することにあまり積極的ではない。</p> <p>少人数見知り。</p> <p>「はくちかう園」のゼミが決まった時、どう接したつよいが正直不安な気持ちもあった。</p>	<p>言葉以外でもコミュニケーションがとれるということに気付いた。</p> <p>相手の目を見て、同じ目標に立ち、心を込めて接すれば、一生懸命さは必ず伝わることを学んだ。</p> <p>同じ目標に立ち、相手が必要とする時に必要なことをして、「お力ごとく」という言葉と笑顔をもつことは、とても嬉しかった。</p>	<p>自分なりの考えをもつことができた。</p> <p>言葉以外でも、コミュニケーションはとれるということ。</p> <p>相手の目を見て、同じ目標に立ち、心を込めて接すれば、一生懸命さが伝わるということ。</p> <p>積極的にコミュニケーションをとることが大事ということ。</p> <p>↓</p> <p>福祉についての関心が高まった。</p>	<p>高齢者、障害者の方に対して「かわいそう」とか「大変だね」というように、特別視したり、無能力根拠をすることは、絶対にしてはいけないようにする。</p> <p>積極的にコミュニケーションをとってほしい。</p>

1

総合的な
学習の時間

6 指導の工夫

(1) 3分間作文～体験した後で実施～

あるテーマについて、下のア～カのように3分間で自分の思いを文字に表す。□□文字以上書きなさいという指導ではなく、3分間で何文字書けるかを指導のポイントとする。まず、はじめに書く力を高めてから読む練習をする。その後、プレゼンテーションへと段階的に指導していく。

- ア 気持ちを落ち着かせて書く内容を考える。
- イ 目標の文字数を決め、用紙に到達すべきラインを記入する。
- ウ 「はじめ」の合図で、3分間で自分の思いを書き出す。
- エ 途中経過時間を知らせる。
- オ 書いた文字数を記録する。
- カ 内容を要約して話す。(シェアリング)

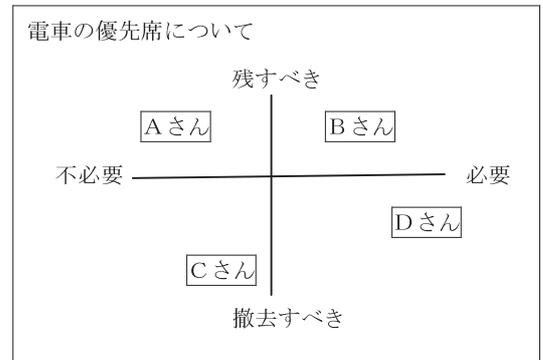
【3分間作文】

このことで自分の考えや気づきをまとめ、自分にどれだけの変化があったのか(数回実施するうちに文字数が増えてくる)確認できた。

(2) ネームカードによる話し合い～まとめの場面で実施～

右のように黒板に座標軸(マトリックス)を書き、自分の考えの所にネームカードをはり、他の人の考えを把握した上で話し合いを行う。話し合いの方法として、同じ考えの人同士での話し合うこともあれば、違う意見の人と意見を交流させることもある。相手を説得することもあれば、コンセンサスをとることもある。

このことで自分の考えを深めるとともに、客観的な考え方を知ることができた。また、他の人の考えが一目瞭然になり、「発表し合い」から「話し合い」に転換することができた。

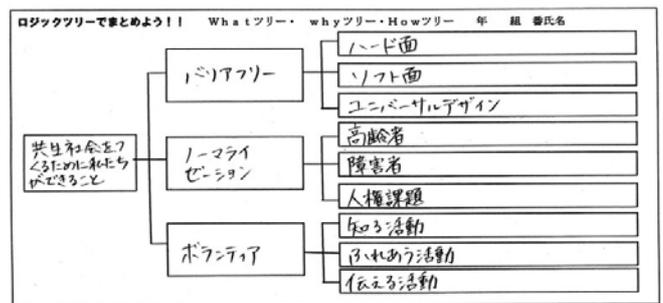


【ネームカードによる話し合い】

(3) ロジックツリー～シナリオづくりの場面で実施～

自分の考えを体系的にまとめるためにロジック(論理的)ツリー(木)に記入する。各階層にもれがないように、重なりがないようにする。ものごとを要素に分解するWhatツリー、問題の原因を考えるWhyツリー、課題の解決策を考えるHowツリーがある。

このことで、テーマに沿って一貫性があるシナリオができた。原稿を読むのではなく自分の言葉で話せるようになり、分かりやすいプレゼンテーションになった。



【ロジックツリー】

(4) プレゼンテーション評価カード→発表の場面で実施

自分のプレゼンテーションがどれだけ聞いている人に伝わったのかを確認するために相互評価を行う。聞いていた人が三つのプレゼンテーションスキルの評価とよかった点と改善点を記入し、発表者に渡す。発表者側からの「伝えたか」ではなく、聞き手側の「伝わったか」という視点で評価をする。

このことで、発表者は、聞き手にどれだけ自分の思いが伝わったかが確認でき、次回の発表に対する見通しをもつことができた。発表のたびにプレゼンテーション力が向上した。

平成 年 月 日 () 回目	発表者
【プレゼンス】	①・B・C・D
伝えたい思い・姿勢・やる気	
【シナリオスキル】	①・B・C・D
内容の濃さ・わかりやすさ	
【デリバリースキル】	A・①・C・D
表情・視線・話し方	
総合評価	①・B・C・D
コメント (soft love&hard love)	とてもよく、話の内容が伝わってました。 もっと顔をあげて話すといいです。
	()より

【プレゼンテーション評価カード】

第3 総合的な学習の時間における伝統や文化に関する内容の学習について

1 題材 「三峯神代神楽を上演しよう」 第2学年（35時間）

2 題材について

旧大滝村の滝の沢地区には100年程前から神楽が伝承され、三峯神社の例大祭に奉納されてきた。平成13年度から保存会の方々に講師に招いて、神楽の伝習活動に取り組んでいる。3年生が1・2年生に伝え、細部は保存会に指導していただきながら全員が神楽のできる学校になっている。毎年5月8日の三峯神社神楽殿での発表をはじめ、多くの発表の機会に演じ、高い評価を得ている。

3 題材の目標

- 郷土の伝統芸能の学習を通して、郷土の文化に関心をもち、郷土とのかかわりを深め、「ふるさとに学び、ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる生徒」を育成する。
- 先輩から後輩へ伝える活動を通して、生徒同士の望ましい人間関係を構築する。
- 困難に打ち勝ち、自己の役割と責任を果たすとともに、相手の立場を尊重し、広い視野でものごとを判断する態度を育てる。
- 「蛇打之座」と「千之理座」を上演できるように、それぞれの役割について技能を追究させる。

4 指導計画

- (1) 神楽について知る。(6時間)
 - ・ あらすじを知る ・ 三峯神代神楽を鑑賞する
 - ・ 役割分担をする ・ 個人の課題を設定する
- (2) 神楽の体験学習 (27時間)
 - ・ 上級生から学ぶ ・ 指導者から学ぶ
 - ・ 神楽を完成させる ・ 神楽の発表をする
- (3) 学習のまとめ (2時間)
 - ・ まとめ ・ 次年度に向けて



【笛の練習（指導者から学ぶ）】



【神楽の発表】

5 成果

- 神楽に関わる活動を通して、生徒は地域とのかかわりを深めるとともに自信を高めている。
- 様々な人とのかかわりを通して、伝統文化を伝承し、保存していくことの意義について理解を深めている。

第4 総合的な学習の時間におけるボランティア活動について

事例1 杉山城跡（国指定史跡比企城館跡群の一部）の整備

1 取組

平成20年度に国史跡に指定された杉山城跡の整備を地域の保存会と町行政との合同で行っている。事前に学習会を行い、先輩から後輩へ、どんな整備活動を行えばよいかを伝え、竹・雑木等の伐採と運搬、樹木チップの敷設などを行っている。

2 成果

- 伐採等の体験をとおして、文化財保護の必要性に気付き、文化財保護の在り方を体験的に学ぶことができた。
- 地域の保存会の方々と作業を行うことで、郷土を愛する心を育むとともに、協同的に取り組むことの大切さを学ぶことができた。



【雑木等の伐採】

事例2 「花の鉢植えキット」プレゼント（環境ボランティア活動）

1 取組

埼玉県環境科学国際センターと協力し、循環型社会を地域に根付かせようと、水草を活用して肥料をつくる協同プロジェクトに取り組んでいる。平成21、22年度には、2年生が、水草からつくった肥料を使用した「花の鉢植えキット」をつくり、地域の人にプレゼントする環境ボランティア活動を行った。

2 成果

- 環境への理解や関心が高まり、環境を大切にする心の育成が図られている。
- 持続可能な循環型社会の実現を目指して、主体的に行動できる実践的な態度や資質、能力が育まれた。
- 学校で行っている環境教育を地域にアピールし、環境に優しい地域づくりに寄与できた。



【「花の鉢植えキット」のプレゼント】

第5 総合的な学習の時間における小中連携について

1 小中7年間（小3～中3）の総合的な学習の時間のカリキュラムをつなげる

総合的な学習の時間のねらいを実現するためには、中学校と小学校の教師が教育課程や学習内容、指導方法を学び合い、児童生徒の学びの連続性の大切さを理解することが重要である。また、児童生徒の実態を把握し、重点指導事項を共有して指導を行うことは大変効果的である。

つながりのあるカリキュラム作成例

- 児童生徒の発達の段階や地域の実態（伝統や文化、自然環境等）を考慮し、作成する。
- 中学校区の学校間で連携し、学習内容が大きく重複したり、課題や活動の広がりや深まりが逆転したりすることのないよう配慮するとともに、児童生徒の交流できる活動を計画する等の工夫を図る。

例	小学校 3年 70時間	小学校 4年 70時間	小学校 5年 70時間	小学校 6年 70時間	中学校 1年 50時間	中学校 2年 70時間	中学校 3年 70時間
伝統・文化	伝統や文化 「めざせ！ 〇〇名人」 (35時間)			伝統や文化 「わが町歴史 探検隊」 (35時間)			伝統や文化 「地域の歴史と 比べて」 (35時間)
進路 キャリア		進路・キャリア 「働く人と わたし」 (35時間)		進路・キャリア 「身近な仕事 研究班」 (35時間)		進路・キャリア 「働いて、 何？」 (35時間)	卒業研究「未来に 生きる」 (35時間)
福祉・健康		福祉・健康 「やさしい町って どんな町？」 (35時間)	福祉・健康 「食と健康を 考える」 (35時間)		福祉・健康 「点字の先に 見えるもの」 (50時間)	環境・福祉・健康 「わたしたちに できること」 (35時間)	
環境	環境 「身近な自然 見付け」 (35時間)		環境 「われら 環境調査隊」 (35時間)				

2 小中学校間で教員の情報交流を行う

小中学校間で総合的な学習の時間の内容や指導方法などの情報を伝え合い、共有化することにより、児童生徒の発達の段階により即した、適切な指導を進めることができる。

小中教員の情報交流例

- 探究的な学習活動にするための工夫や「整理・分析」における言語活動の工夫などに係る合同研修会の実施
- 児童生徒の実態や指導方法を学び合う授業参観の実施（小学校・中学校それぞれの授業を参観し合う。）
- 中学校の教師が専門性を生かした小学校での授業の実施や、きめ細やかな視点を生かした小学校の教師による中学校での授業の実施

3 児童生徒の交流を行う

児童生徒が学習を通じた交流を行うことで、児童は中学校生活の見通しをもつことができるようになり、生徒は自分自身の成長を確認することができる。

児童生徒の交流例

- つながりのあるカリキュラムを生かし、学習している単元のつながりがある学年で一緒に調査研究の発表会等を行う。
(例：小学校第5学年「われら環境調査隊」と中学校第2学年「わたしたちにできること」での調査研究発表会を行う。)
- 地域の伝統や文化を伝え合う交流会（例：和太鼓の発表会に小学生を招待する。お囃子を小学生に対し指導する。)